

壁いっぱい



展示室の全長約70mの壁いっぱいに泥絵を描くアーティストの浅井裕介さん。生命力あふれる作品が来場者を魅了した。2012年

滞在制作 20年の歩み多彩



市民と一緒に

ブラジルのアーティスト、カルロス・ヌネスさんのパフォーマンスで、ACCの「水のステーション」にビニール袋の彫刻」を投げ入れる参加者。2019年



雪の中で

閉館20周年を迎えたACCの展示棟。設計した安藤忠雄さんは、建物が真っ白な雪の中にこもるこもを意識していた。11月13日撮影

青森国際芸術センター青森

青森

青森公立大学国際芸術センター青森（ACC）が昨年12月で閉館20周年を迎えた。国内外の芸術家に創作活動の場を提供し、滞在制作してもらう「アーティスト・イン・レジデンス」を行う老舗として、美術界では全国的に知られる存在だ。これまでに公募や指名を含む251組の作家を招き、本県の自然や風土に刺激を受けたさまざまな表現が生み出されてきた。

（大友麻紗子）

ACCで滞在制作を経験した作家の中には、今や国内外で広く活躍する人も。十和田市現代美術館などの企画展に呼ばれ、再び本県に帰ってくる人も少なくない。ACCの村上綾学委員は「草の根の活動が実っている」と語る。作家と市民の近さは、滞在制作ならではの魅力。アートを通して社会を見つめ、ともに語り合う場になっている。

※ACCは28日まで休館中。20年間の活動を振り返る連載「森と人とアート」を、22日から文化面に掲載します。

野外彫刻



開館初期、第一線で活躍する作家たちがACCの敷地内に野外彫刻を制作した。写真は彫刻家の植松壺三さんと、ステンレスで樹木を表現した作品。2003年



民俗資料とコラボ

青森市所蔵の民俗資料などをアーティストの監修で構成した市所蔵作品展。2016年。この時監修したのは、昨年の東京五輪・パラリンピックのエンブレムを考案した野老（とこ）朝雄さん

世界最大級プレス機

ACCにある世界最大級のプレス機を使った版画ワークショップ。サポート団体AIRS（エアーズ）との共催で行った。2021年11月

